

## Ⅱ：分担研究報告

### 研究 5

全国の児童自立支援施設における薬物乱用の意識・実態調査（2020年）

分担研究報告書

全国の児童自立支援施設における薬物乱用・依存の意識・実態に  
関する研究

分担研究者：庄司正実（目白大学心理学部）

研究協力者：宇佐見兼市（国立武蔵野学院）

小林昌彦（国立武蔵野学院）

【研究要旨】

【目的】本研究の目的は薬物乱用のハイリスク群である非行児の薬物の実態を継続的に把握し、青少年特に非行児の薬物乱用に対する予防・治療教育の基礎資料を得ることである。

【方法】全国の児童自立支援施設に入所中の児童に無記名式質問紙調査を実施した。有効調査人数は846人（男性620人、女性226人）であり、施設回収率は75.4%であった。

【結果】

1) 有機溶剤乱用者数は男性14人（2.3%）女性11人（5.2%）、大麻乱用者数は男性4人（0.7%）女性8人（3.8%）、覚せい剤乱用者数は男性2人（0.3%）女性1人（0.5%）、ブタン乱用者数男性14人（2.3%）女性10人（4.7%）であった。その他、睡眠薬乱用者が男性8人（1.3%）女性20人（9.5%）、抗不安薬乱用者が男性10人（1.7%）女性18人（8.5%）、ブロン（咳止め液）乱用が男性4人（0.7%）女性6人（2.8%）に認められた。従来の結果と同様にほとんどの薬物にて女性は男性より乱用頻度が高かった。

2) 1994年度からのおもな薬物乱用頻度の変化は以下のとおりである。有機溶剤乱用はこれまでと同様に減少傾向を示した。特に男性においてこの傾向が著しく、1994年41.2%から2006年以降10%前後に減少し前回3.7%で今回2.3%であった。女性でも1994年59.6%から2006年以降30%となっていたが、前回12.5%今回5.0%となった。覚せい剤乱用は男女とも2000年ころまでやや増加傾向にあったが、2002年以降減少傾向を示しており、男性は2006年以降1%以下で今回0.3%、女性は2008年以降10%以下となっていたが今回は0.5%とさらに減少した。大麻乱用頻度について、男性は4%から5%前後であったが2010年以降2%ほどで今回は0.7%となり、一方女性では1994年（22.0%）および1996年（19.0%）はやや高かったが1998年から14%から15%台となり前回4.3%今回3.6%と10%以下となっている。

3) 薬物乱用に対する態度は、許容的態度をしめす者が男性では2%から4%、女性では5%から20%見られ、女性では特に医薬品乱用に対しては許容的傾向であった。入所非行児の非行歴を検討した結果では非行程度がやや軽度化している傾向が示唆された。

【考察】児童自立支援施設入所児童は薬物乱用のハイリスクグループであるが、ここ20年間の調査で児童の薬物乱用は著しく減少した。入所非行児における薬物問題は相対的に小さいものとなっていると考えられるが、医薬品乱用などについては引き続き注意が必要である。

A. 研究目的

われわれは、1994年度より2018年度まで隔ごとに児童自立支援施設入所非行児の薬物乱用の実態を全国調査してきた<sup>1) -12)</sup>。その結果、有機溶剤乱用者は男女とも低下してきており特に男性における低下が顕著であるという結果が得られている。また、覚せい剤乱用は男女とも2000年ころまで増加傾向にあったが、2002年以降減少傾向を示していた。大麻乱用頻度について男

性は2008年までは4%から6%前後でありその後は1%から2%、女性では2010年までは10%から20%みられたが2012年以降は数%で続いている。その一方で睡眠薬や抗不安薬などの医薬品乱用が特に女性では2018年調査で10%前後と多く認められていた。

これら各種薬物の非行少年における乱用実態を継続的に把握し今後の薬物乱用対策に資することが本研究のおもな目的である。薬物乱用では実際に検挙されず暗数となっている乱用者が

多く、特に入所女子非行児では依然薬物乱用問題は重要な位置を占めており、非行児の実際の薬物乱用状況を知ることはいくらでも必要である。

児童自立支援施設入所非行児における薬物乱用の動態の変化は薬物乱用検挙少年者数動向と類似している。警察庁統計によれば 2017 年に覚せい剤事犯で送致した少年は 91 人、大麻事犯で検挙した少年は 297 人であった<sup>13)</sup>。有機溶剤乱用は 1990 年代初め 2 万人以上が検挙されていたが、現在激減しており、平成 29 年の少年検挙数は 9 名にすぎなかった。

このような検挙数の変化が、実際の非行臨床場面における薬物乱用に反映しているかどうかを把握することは非行臨床の実践にとっても重要である。

本調査では、2018 年に引き続き児童自立支援施設入所非行児の薬物乱用実態を調査することにより薬物乱用のハイリスク群である非行児の薬物乱用の動態を把握する。おもな調査対象薬物は、われわれの従来調査の結果と比較できることおよび他の調査研究や司法統計資料と比較検討できることより有機溶剤、大麻、覚せい剤、ブタンとしたが、その他の薬物についても簡単に乱用経験および周囲の乱用状況を尋ねる質問項目を追加した。

## B. 研究方法

### 1. 対象

全国の 57 の児童自立支援施設入所児童に調査用紙を配布した。回答が得られた施設は、43 施設であった（施設回収率 75.4%）。分析では性別の記載のなかった者を除いた。その結果最終的調査対象者数は 846 人（男性 620 人、女性 226 人）となった。

### 2. 調査用紙

調査用紙は資料に示した。調査項目は、薬物乱用関連項目、薬物以外の非行関連項目、性格検査項目、一般個人属性などである（資料参照）。回答用紙は無記名式である。

調査が今後も同一施設に継続的に実施できるよう、なるべく被調査施設および被調査者の負担にならないように留意した。前回より調査項目を減らし、また回答者である児童にとって見やすいようなレイアウトで回答に負担がかからないように配慮した。

### 3. 調査手続き

調査用紙は各施設に郵送し、施設ごと集団

で実施してもらった。終了後施設ごと一括して返送してもらった。回答は強制ではなく回答したくない場合は回答しなくてもよく、また回答しなくても不利益は被らないことを説明し実施した。調査期間は 2020 年 10 月であった。調査は目白大学医学系研究倫理審査委員会の承認を得た（20 医-013）。

## C. 研究結果

### 1. 対象者の属性

対象者の、性・学年構成、性・年齢構成、施設入所期間、地域別人数、非行歴、初発非行年齢、家庭裁判所係属歴を表 1 から表 7 に示した。

性別にみると男性が 620 人で全体の 73.2% を占めている。就学状況は、中学 3 年生が男性 220 人（36.6%）、女性が 86 人（40.8%）と最も多い（表 1）。中学生が多いが、高校生および専門学校生が男性 33 人（5.5%）、女性 11 人（5.2%）いた。中学卒業後で無職である者も男性 3 人（0.5%）、女性 9 人（4.3%）いた。そのほか小学生が男女それぞれ 83 人（13.8%）、20 人（9.5%）いた。就労者は男女含め 2 人いた。年齢で見ると中学 2 年および 3 年に相当する 14 歳および 15 歳が男性でそれぞれ 29.9%、22.4%、女性で 27.9%、25.7% と多くを占めていた。一方、18 歳以上の者は男性 4 人女性 4 人であった（表 2）。

施設入所期間は、最も多いのは期間 7 ヶ月から 1 年で男性 168 人（27.1%）、女性 51 人（24.2%）であった。また入所初期の 3 ヶ月以下の者が男性 112 人（18.1%）、女性 51 人（24.2%）であった。一方、2 年 1 ヶ月以上入所している者が男性 56 人（9.0%）、女性 14 人（6.6%）いた（表 3）。

居住地は、施設の所在地により北海道・東北、関東、中部、関西、中国・四国、九州・沖縄に分けた。国立 2 施設については児童本人の居住地を確認していないため居住地不詳とした。最も人数の多かった地域は関東（男性 93 人、女性 26 人）であり、また調査対象数が最も少なかったのは九州（男性 69 人、女性 27 人）であった（表 4）。

非行歴に関しては多いものから順に、男性では怠学 340 人（56.6%）、傷害 302 人（50.2%）、家出・外泊 267 人（44.4%）、家庭内暴力 239 人（39.8%）、窃盗 238 人（39.6%）、女性では怠学 164 人（77.7%）、家出・外泊 157 人（74.4%）、家庭内暴力 111 人（52.6%）、金品持ち出し 108 人（51.2%）、

不良交友 94 人 (44.5%) などとなっている (表 5)。

初発非行年齢は、男女とも小学校 3 年から中学校 1 年で 10% 台でありほぼ一定である (表 6)。

家庭裁判所への係属歴は、やや男性が多く、男性 108 人 (18.2%)、女性 21 人 (9.5%) である (表 7)。

## 2. 薬物乱用の頻度

調査対象薬物は有機溶剤、ブタン、大麻、覚せい剤、コカイン、睡眠薬、抗不安薬 (安定剤)、咳止め液、MDMA、リタリンである。入所非行児の薬物乱用は女性に多く性差があるため、男女別に検討した。

### 1) 周囲の薬物乱用頻度 (表 8)

児童達の交友関係など周囲に各種薬物乱用者がいるかどうか尋ねた。その結果、すべての薬物で女性は男性よりも周囲の薬物乱用頻度が高く、これまで通りであった。

男性では、有機溶剤 45 人 (7.5%)、ブタン 32 人 (5.3%)、大麻 27 人 (4.5%)、抗不安薬 25 人 (4.2%)、睡眠薬 23 人 (3.8%)、覚せい剤 20 人 (3.3%)、コカイン 10 人 (1.7%)、咳止め液 10 人 (1.7%)、MDMA 6 人 (1.0%)、リタリン 2 人 (0.3%) の順であった。

女性では、有機溶剤 43 人 (20.4%)、大麻 43 人 (20.4%)、睡眠薬 42 人 (19.9%)、抗不安薬 35 人 (16.6%)、覚せい剤 29 人 (13.7%)、ブタン 16 人 (7.6%)、咳止め液 15 人 (7.1%)、コカイン 12 人 (5.7%)、MDMA 7 人 (3.3%)、リタリン 2 人 (0.9%) の順であった。

### 2) 周囲の薬物乱用による精神症状発現者 (表 9)

有機溶剤・大麻・覚せい剤・ブタン・睡眠薬/抗不安薬の 5 つについて、身近に使用して病気や異常になった人がいたかどうか尋ねた (表 9)。「いた」「いない」の 2 件法である。

その結果、男性の周囲で薬物による症状は、睡眠薬 13 人 (2.2%)、有機溶剤 9 人 (1.5%)、覚せい剤 7 人 (1.2%)、ブタン 7 人 (1.2%)、大麻 6 人 (1.0%) であった。

一方女性の周囲で薬物による症状は、覚せい剤 16 人 (7.6%)、大麻 14 人 (6.6%)、睡眠薬 14 人 (6.6%)、有機溶剤 9 人 (4.3%)、ブタン 3 人 (1.4%) であった。

### 3) 周囲からの薬物乱用の誘い (表 10)

有機溶剤・大麻・覚せい剤・ブタン・睡眠薬/抗不安薬を誘われたことがあるかどうかを尋ねた。「ある」「なし」の 2 件法である。

男性で誘われた薬物は、有機溶剤 13 人 (2.2%)、大麻 13 人 (2.2%)、ブタン 9 人 (1.5%)、睡眠薬 9 人 (1.5%)、覚せい剤 8 人 (1.3%) の順であった。

一方女性では、大麻 20 人 (9.5%)、睡眠薬 18 人 (8.5%)、有機溶剤 17 人 (8.1%)、覚せい剤 11 人 (5.2%)、ブタン 10 人 (4.7%) の順であった。

### 4) 薬物の入手性 (表 11-1、11-2)

有機溶剤・大麻・覚せい剤・ブタン・睡眠薬/抗不安薬の 5 薬物について、入手がどの程度可能であるか尋ねた。「簡単に手に入る」「何とか手に入る」「ほとんど不可能」「絶対に不可能」の 4 件法である。

このうち「簡単に手に入る」としたものは、男性ではブタン 19.2%、有機溶剤 11.3%、睡眠薬 9.2%、大麻 3.5%、覚せい剤 2.2% であった。

一方女性では、睡眠薬 23.7%、ブタン 19.8%、有機溶剤 17.8%、大麻 11.2%、覚せい剤 6.7% であった。

### 5) 本人の薬物乱用頻度 (表 12)

本人の薬物乱用もほとんどの薬物において女性は男性より頻度が高かった。

男性では、乱用頻度が高い順に、有機溶剤 14 人 (2.3%)、ブタン 14 人 (2.3%)、抗不安薬 10 人 (1.7%)、睡眠薬 8 人 (1.3%)、大麻 4 人 (0.7%)、咳止め液 4 人 (0.7%)、覚せい剤 2 人 (0.3%)、MDMA、コカイン、リタリンは該当者がいなかった。

女性では、乱用頻度が高い順に、睡眠薬 20 人 (9.5%)、抗不安薬 18 人 (8.5%)、有機溶剤 11 人 (5.2%)、ブタン 10 人 (4.7%)、大麻 8 人 (3.8%)、咳止め液 6 人 (2.8%)、MDMA 2 人 (0.9%)、覚せい剤 1 人 (0.5%)、コカイン、リタリンは該当者がいなかった。

各薬物とも無回答者がいたため乱用頻度の少ない薬物では結果の信頼性に問題がある。

### 6) 飲酒歴 (表 13、表 14)

2010 年調査より飲酒歴についても確認することとしている。飲酒経験は、男性では 119 人 (19.8%)、女性では 107 人 (48.6%) であった。飲酒頻度は男性では 1 年で数回とした者 (64 人; 10.6%) がやや多いが、女性では週に 2-3 回

(29人; 13.2%)とした者が多く、女性のほうが飲酒していた。飲酒開始年齢は、男女とも中学校1年生がそれぞれ25%以上であり最も多かった。

#### 7) 喫煙歴および喫煙への態度 (表15、表16、表17)

喫煙歴についても2010年調査より調査項目とした。喫煙歴は男性100人(16.6%)、女性87人(39.2%)であり、女性は頻度が高かった。喫煙は、飲酒と異なり経験者では使用頻度はほぼ毎日とする者が男女とも最も多かった。男性の45人(7.5%)、女性の42人(18.9%)が毎日喫煙をしていた。喫煙開始年齢は、男女とも中学校1年生がほぼ25%以上で最も多かった。

法律による未成年の喫煙禁止については、「すべきではない」「少々ならかまわない」「かまわない」で尋ねた。男性では「かまわない」および「少々ならかまわない」という許容的回答をした者は、男性ではそれぞれ49人(8.6%)、65人(11.4%)、女性ではそれぞれ31人(14.8%)、61人(29.0%)であった。

#### 8) 有機溶剤、大麻、覚せい剤、ブタンの乱用頻度の年代変化 (表18-1、18-2)

有機溶剤、大麻、覚せい剤の乱用頻度について、1994年から今回2020年調査までの隔年調査結果を表にまとめた。ブタンは調査開始の2000年からの結果を示した。

有機溶剤乱用は、男性において一貫して減少しており1994年41.2%から2008年には10.7%となり、今回は前回2018年より減少し2.3%となった。女性有機溶剤乱用率は男性よりも減少率がゆるやかであったがやはり漸減し前回2018年12.5%から今回5.0%となった。

大麻は男性では1994年から2008年までほぼ4%から6%の範囲であったが、2010年以降2%程度が続いており今回2020年は0.7%となった。女性では1998年から2008年にかけて14%から15%台であったが2012年以降10%以下となり前回2018年4.3%から今回3.6%に微減した。

覚せい剤は男性では1994年1.2%から2000年5.0%まで増加したのち、2002年2.5%、2004年1.6%となり、2006年以降1%以下であり前回2018年は0.5%だったが今回は0.3%と1%以下であった。女性では1994年6.6%から1998年16.9%まで増加したが、2000年15.2%から2006年10.9%へと低下傾向であり、2008年以降は10%以下となり2012年からは5%以下であったが、前回2018年の3.4%に対して今回は0.5%と減少した。

ブタンは、男性では2000年17.8%からやや減少傾向にあったが2014年までは10%以上見られた。今回は前年と同様に10%以下の2.3%であった。女性でも2000年33.3%から減少傾向を示し前回2018年5.3%に減少している。今回は減少し4.5%だった。男女とも10%以下で推移している。

#### 9) 地域ごとの有機溶剤、大麻、覚せい剤の乱用頻度 (表19-1、19-2)

比較的乱用者の多い有機溶剤、大麻、ブタン、睡眠薬の各種薬物乱用頻度を地域ごとにみてみた。

男性では、全体で見ると関東の乱用者が最も多かった。有機溶剤は九州で乱用者が多かった。その他の地域で多かったのは、大麻の中部、ブタンの関西であった。

女性の場合、全体的に東北・北海道で各種薬物乱用者が多かった。関東では大麻の乱用が多かった。

地域別の検討では対象数が少なくなるので調査年度による変動が大きい。そのため結果についての信頼性は低いと考えられる。

#### 3. 各種薬物に対する意識 (表20-1、20-2)

有機溶剤、大麻、覚せい剤、ブタン、睡眠薬・抗不安薬について薬物使用への意識を尋ねた。回答は「すべきではない」「少々なら構わない」「構わない」「考えたことがない」の4件法である。

いずれの薬物も男性は半数以上、女性はほぼ半数の児童が特に薬物乱用をしてはいけないかどうか考えたり意識したりはしていなかったとしている。それ以外の回答では、すべきではないと答えた者が多かった。

男性で「すべきではない」と回答した者は、有機溶剤45.2%、大麻48.0%、覚せい剤49.7%、ブタン44.7%、睡眠薬・抗不安薬44.7%であった。女性で「すべきではない」と回答した者は、有機溶剤43.1%、大麻45.2%、覚せい剤49.5%、ブタン41.7%、睡眠薬・抗不安薬38.6%であった。

すべての薬物で男性の方が女性よりも「すべきではない」と答える傾向であった。

#### 4. 有機溶剤、大麻、覚せい剤の乱用頻度・有害性の知識・体験症状

##### 1) 有機溶剤

##### ① 有機溶剤吸引頻度 (表21)

乱用者の男性6人女性6人が有機溶剤を最も乱用していた時期の吸引頻度を回答した。

「今まで1、2回」が男女それぞれ5人

(83.3%)、2人(33.3%)と多かった。「ほとんど毎日」と回答した者は男女それぞれ該当者なし、2人(33.3%)であった。

## ② 有機溶剤の有害性知識 (表 22)

有機溶剤乱用の影響として、急性中毒死、精神病状態(幻覚・妄想など)、フラッシュバックについて知っていたかどうかを尋ねた。

男性の知識は、急性中毒死148人(23.9%)、精神病状態225人(36.3%)、フラッシュバック202人(32.6%)であり、いずれもしらなかったのは308人(49.7%)であった。

女性では急性中毒死69人(30.5%)、精神病状態119人(52.7%)、フラッシュバック101人(44.7%)であり、いずれもしらなかったのは83人(36.7%)であった。

女性の方が男性よりも有害性知識がある傾向にあった。

## ③ 有機溶剤で体験した症状(乱用者) (表 23)

乱用者の男性6人女性6人に有機溶剤による症状の体験を尋ねた。精神病状態が男性乱用者なし、女性乱用者1人(16.7%)、フラッシュバックは男性乱用者4人(66.7%)、女性乱用者2人(33.3%)であった。

## 2) ブタン乱用

### ① ブタン乱用頻度 (表 24)

乱用者の男性5人女性5人がブタンを最も乱用していた時期の吸引頻度を回答した。「ほとんど毎日」していた経験があるのは、男性2人(40.0%)、女性は該当者なしであった。一方、「いままで1、2回」のみと回答した者は男性2人(40.0%)、女性3人(60.0%)であった。

### ② ブタンの有害性知識 (表 25)

ブタン吸引の影響として、精神病状態、急性中毒死を知っていたかどうかについて尋ねた。

男性の知識は、急性中毒死83人(13.4%)、精神病状態83人(13.4%)、いずれもしらなかったのは454人(73.2%)であった。

女性では急性中毒死44人(19.5%)、精神病状態31人(13.7%)、いずれもしらなかったのは163人(72.1%)であった。

女性の方が男性よりも有害性知識がある傾向にあった。男性では乱用者は非乱用者よりも有害性の知識があるが、女性では急性中毒死について乱用者と非乱用者の間に大きな差はないようであった。

### ③ ブタンで体験した症状(乱用者) (表 26)

乱用者において体験した症状を尋ねた。その結果ブタン乱用によって精神病状態を体験した者は男女それぞれ1人(20.0%)、1人(20.0%)であった。

## 3) 大麻

### ① 大麻の知識・関心 (表 27)

「大麻を吸う前(使ったことがない人は施設入所前)、大麻についてあなたはどう思っていたか」を尋ねた。

関心がなかったとした者が男性385人(68.8%)女性149人(70.3%)と最も多かった。一方「見てみたかった」が男性22人(3.9%)女性16人(7.5%)、「試してみたかった」が男性10人(1.8%)女性14人(6.6%)であった。

### ② 最もしていた時の大麻乱用頻度 (表 28)

大麻乱用経験者の男性4人女性8人に最も吸引していた時期の吸引頻度を尋ねた。「今まで1、2回」が男性では3人(75.0%)女性では3人(37.5%)と多かった。また「数回以上」と答えた者も男性1人(25.0%)女性4人(50.0%)と多かった。女性で「ほとんど毎日」と答えた者が1人(12.5%)みられた。

### ③ 大麻の有害性知識 (表 29)

大麻吸引の影響として、精神病状態になることを知っていたかどうかを尋ねた。男女それぞれ295人(52.7%)および127人(59.9%)が知っていたと回答した。

### ④ 大麻で体験した症状(乱用者) (表 30)

乱用者に大麻による精神病症状を体験したかどうかを尋ねた。男性2人(50.0%)、女性4人(50.0%)が精神病症状を体験したと答えた。

## 4) 覚せい剤

### ① 覚せい剤への知識・関心 (表 31)

「覚せい剤を使う前(使ったことがない人は施設入所前)、覚せい剤についてどう思っていたか」を尋ねた。関心がなかったとした者が男性401人(71.7%)女性153人(72.5%)と最も多かった。「見てみたかった」および「試してみたかった」という覚せい剤への関心を示した者が、男性でそれぞれ19人(3.4%)6人(1.1%)、女性でそれぞれ15人(7.1%)11人(5.2%)いた。

## ② 覚せい剤の乱用頻度（表 32）

覚せい剤乱用者男性 2 人女性 1 人が最も乱用していた時期にどの程度乱用していたかを回答した。男性のみ「今まで 1、2 回」が 2 人（100.0%）であり、「数回以上」は女性のみで 1 人（100.0%）いた。

## ③ 覚せい剤の有害性知識（表 33）

覚せい剤吸引の影響として、精神病状態およびフラッシュバックを知っていたかどうかについて尋ねた。男性の知識は、精神病状態 208 人（33.5%）、フラッシュバック 170 人（27.4%）であり、いずれもしらなかったのは 328 人（52.9%）であった。一方女性は、精神病状態 102 人（45.1%）、フラッシュバック 79 人（35.0%）であり、いずれもしらなかったのは 105 人（46.5%）であった。

## ④ 覚せい剤の有害性体験率（表 34）

覚せい剤乱用者に、精神病状態、フラッシュバックの体験について尋ねた。男性では、精神病状態は該当者なし、フラッシュバックを 1 人（50.0%）が体験していた。女性では、精神病状態は該当者なし、フラッシュバックを 2 人（100.0%）が体験していた。

## D. 考察

今年度調査結果はこれまでの調査結果にひき続き入所非行児の薬物乱用が全体として減少していることを示した。薬物乱用状況を以下検討する。

### 1. 本年度調査の薬物乱用実態

今年度の調査でどのような薬物が多く乱用されていたか、また性差や地域差を検討する。

#### 1) 乱用薬物の種類

今年度の調査で、非行児の乱用薬物として多かったのは男性では有機溶剤 45 人（7.5%）およびブタン 32 人（5.3%）、女性では有機溶剤 43 人（20.4%）、大麻 43 人（20.4%）、睡眠薬 42 人（19.9%）、抗不安薬 35 人（16.6%）などであった。

薬物乱用で検挙された少年数は近年減少している。特に有機溶剤乱用は 1990 年頃には 2 万人以上が検挙されていたが、その後急激に減少していき 1994 年に 1 万人以下となり 2006 年には 1000 人以下と大きく減少している。2011 年には少年の送致件数は 100 人となり、2014 年以降は 10 人前後となっている<sup>13)</sup>。われわれのこれまでの入所非行児調査では以前は男女とも有機溶剤

が最も多い乱用薬物であったが、2006 年調査以降は男性では有機溶剤乱用よりもブタン乱用の方が多くなっていた。女性においても 2014 年調査でブタン乱用が有機溶剤乱用よりもやや高い頻度となった。

その一方医薬品である睡眠薬や抗不安薬の乱用が比較的多く認められている。青少年の乱用薬物としてあまり重要視されていないが今後乱用薬物として注意する必要がある。有機溶剤乱用が急減してきたためブタンや抗不安薬など頻度が相対的に高くなり、実態については今後とも把握していく必要がある。

また医薬品として以前より使用されていた咳止め液（ブロン液など）も乱用薬物としてまだ時々みられる。

男性においてその他の薬物乱用頻度は 1%台である。この値は未回答者の頻度と変わらずこれらの薬物乱用頻度は信頼性が低いと考えられる。

全体的に薬物乱用が減少してきているため、特に男性では児童自立支援施設における薬物問題の重要性は低下していると考えられる。そのため薬物に対する啓蒙教育があまり行われなくなるのではないかと心配される。薬物乱用児童にとって施設入所中は薬物教育を受けられる良い機会でありこの間に適切な教育を受けられるかどうかは施設退所後の薬物乱用再発にとって重要と思われる。

非行少年における薬物乱用は有機溶剤乱用中心から多様になってきており、今後そのような変化に合わせた調査や啓蒙教育が必要と思われる。医薬品その他薬物を考慮して調査を継続していく必要がある。

### 2) 薬物乱用の性差

入所非行児の薬物乱用の性差については、従来と同様にすべての薬物において男性より女性において乱用率が高くまた乱用者実数も多かった。一方、警察庁統計によれば<sup>13)</sup>、覚せい剤乱用により検挙された少年は女性がやや多く、大麻では男性が圧倒的に多くなっている。われわれの調査対象である入所非行児においては、検挙された犯罪少年の場合とはやや異なるといえる。

この理由として、一つには女子非行では性非行や薬物非行が重要な入所理由となりやすいことが考えられる。児童保護の観点から、薬物問題は男性より女性で重要となりやすい。児童自立支援施設への入所は児童相談所や家庭裁判所の判断によるので、女性の場合の方が薬物乱用をする生活状況が施設入所に結び付く可能性が

高いと思われる。

### 3) 薬物乱用の地域差

薬物乱用の頻度を地域ごとに検討した結果、薬物の種類により地域差が認められた。しかし、地域ごとの対象人数はそれほど多くないので乱用率などの結果の変動は大きい。そのため地域差については断定的なことは言いにくい。

今回、男性では有機溶剤乱用は九州が高い傾向にあった。またブタン乱用は関西に多かった。一方女性の場合は、全般に有機溶剤乱用が東北・北海道あるいはブタン乱用が関西で高かった。

対象数が少ないため地域差を検討するのは困難であるが、薬物乱用は環境の影響が大きいと考えられるので今後とも地域差については検討をしていく。

## 2. 薬物乱用の年代変化

われわれは1994年以来有機溶剤・大麻・覚せい剤の乱用率を調査し2000年からブタン乱用も調査してきた。

これらの薬物乱用は前回2018年調査まで全般に減少してきていた。その傾向は今回2020年調査ではさらにはっきりした。

乱用頻度の年代変化は回答数や回答施設の変動の影響を受ける。回答者数は今回846人であった。このような回答率の変動を考慮し結果の解釈には注意が必要である。また薬物乱用には地域差があるので回答する施設が調査ごとに異なるとその影響も出てくると思われる。さらに対象者のうち1年以上入所している者が30%以上いる。これらの対象者では1年以上前の薬物経歴を訪ねていることになるので警察統計の年度と直接比較し評価することは難しい。

以上を考慮したうえで有機溶剤乱用、大麻乱用、覚せい剤乱用、ブタン乱用の年次変化についておおよそ下記のとおりである。

### 1) 有機溶剤

男性では1994年度調査より有機溶剤乱用は一貫して減少しており、1994年度から2018年まで2年おきに41.2%、37.3%、30.3%、26.4%、21.6%、14.3%、9.8%、10.7%、7.2%、4.5%、4.5%、3.3%、3.7%となっている。今回2020年度も微減し2.3%となった。

一方、女性も減少傾向にあるが男性より乱用者は多い。女性では、1994年から1998年までの59.6%、50.6%、48.5%と減少したが、2000年は52.3%とやや上昇し、その後2002年から2018年度まで46.5%、44.2%、31.1%、30.5%、

28.6%、21.3%、20.6%、17.2%、12.5%と減少してきており、今回2020年度さらに減少し5.0%となった。

前述のように有機溶剤乱用により検挙された少年数は1991年ごろは2万人前後であったがその後漸減し、近年の検挙数は10件前後までに減少している。この傾向は児童自立支援施設入所非行児の有機溶剤乱用者数の動向は検挙少年数との変化と相関していると思われる。児童自立支援施設入所児童の有機溶剤乱用率がさらに減少していくか継続的調査が必要である。

### 2) 大麻

大麻乱用は、男性では1994年および1996年は5.5%、6.7%であったが、1998年から2008年まではほぼ4%から5%前後で一定していた。2010年から2018年までは1.6%から2.0%ほどであったが、今回2020年はさらに0.7%と減少した。女性では、1994年から1998年まで22.0%、19.0%、14.4%と漸減し、2000年から2008年まで14%から15%台であり、2010年・2012年・2014年・2016年・2018年それぞれ12.6%、7.0%、5.5%、3.3%、4.3%と低下しつづき、今回は3.6%と微減する結果となった。

全体としてみるとこの10年ほど児童自立支援施設入所児の大麻乱用は有機溶剤乱用と比較すると乱用頻度の傾向ははっきりとはしていない。しかし2012年以降男女ともそれ以前よりはかなり減少してきているようであり、今回さらに男女とも減少した。今年度の減少がこれからも継続するのを見ていくことが必要である。警察庁は大麻事犯の検挙数増加の要因として若年者層の使用増加を挙げており今後とも経過を見ていく必要がある。

### 3) 覚せい剤

検挙された覚せい剤乱用少年は1990年代中頃より増加し、その後1998年より減少傾向にある。このような傾向と同様に、児童自立支援施設調査の覚せい剤乱用頻度も、男性では1994年1.2%から2000年5.0%まで増加傾向にあり、2002年度に2.5%へと始めて減少し、2004年1.6%、2006年0.7%となった。2006年以降ずっと1%以下であり、前回2018年も0.5%であり、今回2020年も0.3%と少なくなっている。男性非行児において覚せい剤乱用はほとんど認められなくなっているといえる。女性では男性よりも乱用者が多かったが最近では女性でも減少が目立つ。2006年までは10%以上いたが2008年以降は女性においても覚せい剤乱用は10%以下に減少してきており2014年は3.3%で、2016年1.8%、2018



年 3.4%であった。前回 2018 年まで女性の覚せい剤乱用者はおよそ 3%以上であったが今回 2020 年 0.5%となり初めて 1%以下となった。全般に覚せい剤乱用は一時増加したが、ここ数年は減少傾向にあり今回の減少が継続するのを見ていく必要がある。

#### 4) ブタン

ブタン乱用ここ数回の調査で有機溶剤と同程度の乱用頻度を示しており、入所非行児において注意される乱用薬物であった。調査開始の 2000 年頃は乱用率が男性 17%女性 30%ほどでその後 2014 年までは男性 10%女子 20%ほどであった。2016 年調査より男女とも 1/3 程度に急減し今回の調査までその傾向が続いている。したがってここ数年はブタン乱用が少なくなっていると考えられる。しかし入手が容易な物質であるので今後とも乱用動向を注視する必要がある。

### 3. 対象者の特性

薬物乱用への態度についても一連の研究で継続的に検討している。

#### 1) 薬物乱用に対する態度

従来調査では、対象薬物について、「薬物の乱用そのものについてどう思うか」および「法律で薬物乱用を禁止していることをどう思うか」を尋ねてきた。前回より質問項目数調整のため質問形式および内容を変更した。有機溶剤、大麻、覚せい剤、ブタン、睡眠薬・抗不安薬の 5 つの薬物について薬物を使うことについてどう思うかを尋ねた。

2016 年度より「薬物乱用について特に考えたことはない」という回答選択肢をくわえたところ、どの薬物についても 50%以上が「薬物乱用について特に考えたことはない」と回答していた。今回も男女とも 40%から 50%ほどが考えており、薬物への態度を適切に測れなかった可能性がある。このような制限があるが、考えたことはないという者を除くと、ほとんどの者がすべきではないと答えていた。「少々なら構わない」「構わない」など薬物使用に許容的態度は男性では 5%以下に過ぎなかった。女性は男性よりも薬物乱用に許容的であり、睡眠薬・抗不安薬では 1/5 近くが「少々なら構わない」「構わない」など許容的回答をしていた。有機溶剤や大麻でも 10%ほどが許容的態度を示した。実際の薬物乱用も女性で高いことも合わせて、入所非行児において女性は男性よりも薬物乱用に親和的であると考えられる。

#### 2) 薬物の有害性知識

有機溶剤、ブタン、大麻、覚せい剤における精神症状の知識を尋ねた。有機溶剤では急性中毒死・精神病・フラッシュバックに対して 23%から 50%が知っていると答えていた。それに対してブタンでは急性中毒死の知識が 13%から 20%ほどだった。2016 年が 70%ほどの回答があったことと比べると急減している。このことについて今後とも経過を見る必要がある。幻覚などの精神病症状が出ることについては男性 10%台、女性 10%台と少なかった。大麻や覚せい剤では精神病症状について 30%から 50%の者が知っているとしており薬物への知識はある程度あると思われた。

#### 3) 非行歴

薬物非行を非行問題全般中でとらえる必要があると考え、薬物乱用以外の非行経験もこれまで継続的に調査している。入所非行児の処遇を考えるうえでどのような非行状況にあるのか把握することは重要と考える。相対的に薬物非行が多ければ薬物教育の必要性も高まる。最近の入所児童の非行問題の変化の検討のため、代表的な非行行動として「恐喝・ひったくり」「不良交友」「傷害」の頻度を以前のわれわれの調査結果と比較してみた。

「傷害」は 1998 年男性 70.0%女性 57.1%、前回 2018 年は男性 57.0%女性 49.0%であったが、今回は男性 50.2%女性 42.2%でやや減少傾向である。「不良交友」は 1998 年男性 69.4%女性 80.5%、前は男性 26.5%女性 52.4%、今回は男性 18.0%女性 44.5%であった。やはりこれも調査当初よりやや減少傾向にある。「恐喝・ひったくり」は 1998 年男性 59.6%女性 54.4%、前回男性 9.9%女性 11.1%で、今回は男性 5.3%女性 4.3%でありかなり減少傾向にある。

1998 年より児童自立支援施設は教護院より名称変更され、施設目的も非行性の除去だけでなく自立への援助が必要な児童への対応となってきた。そのため以前より入所児童の非行度は低下している可能性が示唆される。有機溶剤乱用頻度の減少もこのような入所児童の非行性の低下と一部関連しているのかもしれない。しかし薬物によって乱用頻度が大きく減少しているものとそうでないものがあり乱用と非行性全体の関連ははっきりしない。一方、家庭裁判所への係属率などはそれほど変化しておらず、一概に非行性が低下しているとも言いきれず、薬物乱用との関連は断定できない。

今後母集団としての入所児童の特性変化に注意しながら薬物乱用調査をしていく必要があると思われる。

#### 4. 方法論上の問題点

##### 1) 対象者の特性

本研究は児童自立支援施設入所非行児の薬物乱用の実態調査であるが、前述のとおり入所児童の特性が以前と変化している可能性がある。今回入所児童のいくつかの非行行動は薬物乱用に限らず次第に減少していることが示唆されている。

施設関係者の間では入所児童が以前ほどいわゆる反社会性が目立たなくなっていると言われている。特に1998年に教護院から児童自立支援施設へと名称変更になり、同時に施設目的がかつての教護院時代の非行性除去ではなく児童への支援となり、さらに入所児童が変化してきていると考えられる。入所児童はおもに反社会性の高い非行児童であるが、非社会的であったり発達障害などの精神障害を伴い不適応を起こしていたりする児童が増えてきているとされている。国立武蔵野学園による調査では、児童自立支援施設における発達障害の診断率はおよそ20-30%とされる。したがって調査対象そのものの問題が非行などの反社会性よりも養護性となってきている。

以前よりも非行性の軽い児童が多く入所するようになってきているとすると、当然薬物非行もそれに伴い減少している可能性がある。したがって入所児童の特性の変化に注意しながら今後の継続的調査を進めていく必要がある。

##### 2) 対象数の変動

われわれの調査は全国児童自立支援施設を対象としているがこれまで有効回答数はおよそ800人から1200人である。前回2018年は836人で今回も846人でここ2回ほど調査参加人数はやや少なかった。人数が少ないと地域差による変動なども受けやすく結果の信頼性も低下する。本調査は比較的質問数が少ないとはいえ、児童および施設にとって調査協力はやはり負担であると思われるので、次回以降の調査でも回答数が極端に減少しないよう配慮した研究計画を作成していく。

##### 3) 無回答率の問題

無回答を減らすために無記名式の質問紙調査としているが、質問内容が薬物乱用という反社会行動であるため無回答が多くなることが予想される。今回の調査で各薬物の乱用経験について2%から3%が無回答であった。乱用率が数%程度の薬物では乱用頻度と無回答率が変らないこととなる。無回答者においては薬物乱用

者が多い可能性があるため、特に乱用率の低い薬物では乱用率の信頼性が乏しくなる。薬物乱用の頻度そのものがかなり低下してきているため乱用頻度の信頼性が低いものとなってきている。

#### 5. 今後の課題

##### 1) 調査対象数の問題

施設回収率はこれまで70%から80%であり、今回も施設回答数が43施設(75.4%)であった。年度による施設の調査参加率の変動が大きいと結果の信頼性が低下するので今後とも施設回答率が一定以上保たれるようにする必要がある。回答率を維持するために、まず本調査が施設や児童の抵抗を引き起こさないような内容であることに注意しなければならない。現在でも薬物乱用への質問は無用な関心を引き起こしたり過去の非行を思い出させたりして良くないと考えられる場合がある。これらの点に配慮しつつ必要な事柄を聴ける質問紙にしていくことが望まれる。

##### 2) 項目内容の変更

薬物乱用児童が減少してきており乱用児を対象とする質問項目をなくすことが考える。乱用者が数名になっている状況では乱用に伴う症状有無の把握はあまり意味がない。一方医薬品乱用などは乱用薬物がいろいろありどのような医薬品を乱用したかを同定するような質問とした方が乱用実態をより理解できると思われる。今後の調査では質問項目を修正することを考えていく。

#### E. 結論

薬物乱用のハイリスク群である非行児の薬物への意識および実態を把握する目的のため、全国の児童自立支援施設に入所中の児童に質問紙調査を実施した。有効調査人数は、846人(男性620人、女性226人)であった。調査により以下のような結果が得られた。

1) 有機溶剤乱用者数は男性14人(2.3%)女性11人(5.2%)、大麻乱用者数は男性4人(0.7%)女性8人(3.8%)、覚せい剤乱用者数は男性2人(0.3%)女性1人(0.5%)、ブタン乱用者数男性14人(2.3%)女性10人(4.7%)であった。その他、睡眠薬男性8人(1.3%)女性20人(9.5%)、抗不安薬乱用が男性10人(1.7%)女性18人(8.5%)、ブロン(咳止め液)乱用が男性4人(0.7%)女性6人(2.8%)に認められた。従来の結果と同様にすべての薬物にて女性は男性より乱用頻度が高かった。

2) 1994 年度からの薬物乱用頻度の変化は以下のとおりである。有機溶剤乱用はこれまでと同様に減少傾向を示した。特に男性においてこの傾向が著しく、1994 年 41.2%から 2006 年以降 10%前後に減少し前回 3.7%で今回 2.3%であった。女性でも 1994 年 59.6%から 2006 年以降 30%となっていたが、前回 12.5%今回 5.0%となった。覚せい剤乱用は男女とも 2000 年ころまでやや増加傾向にあったが、2002 年以降減少傾向を示しており、男性は 2006 年以降 1%以下で今回 0.3%女性では 2008 年以降 10%以下となっていたが前回 3.4%と比べて今回は 1 人 (0.5%) と減少した。大麻乱用頻度について、男性は 4%から 5%前後であったが 2010 年以降 2%ほどであり今回は 0.7%であった。一方女性では 1994 年 (22.0%) および 1996 年 (19.0%) はやや高かったが 1998 年から 14%から 15%台となり前回 4.3%今回 3.6%と 10%以下となっている。

3) 乱用に対する態度は、許容的態度をしめすものは男性では 2%から 4%女性では 5%から 20%見られ、女性では特に医薬品乱用に対しては許容的傾向であった。一方、入所非行児の非行歴を検討した結果非行程度がやや軽度化している傾向が示唆された。

#### 謝辞

本研究は、全国の児童自立支援施設の多くの方々のご協力により実施ができました。ご協力いただいた方々にここで深謝させていただきます。

#### F. 文献

- 1) 阿部恵一郎：児童福祉施設（教護院）における有機溶剤乱用少年・少女の実態調査。平成 6 年度厚生科学研究費補助金「麻薬等総合対策研究事業」薬物依存研究の社会的、精神医学的特徴に関する研究 平成 6 年度研究結果報告書。1995
- 2) 庄司正実：全国の児童自立支援施設における薬物依存の意識・実態に関する研究 平成 10 年度厚生科学研究「薬物乱用・依存等の疫学的研究及び中毒性精神病患者等に対する適切な医療のあり方についての研究」。1999
- 3) 庄司正実：全国の児童自立支援施設における薬物依存の意識・実態に関する研究 平成 12 年度厚生科学研究「薬物乱用・依存等の実態把握に関する研究及び社会経済的損失に関する研究」。2001
- 4) 庄司正実：全国の児童自立支援施設における薬物依存の意識・実態に関する研究 平成 14 年度厚生労働科学研究「薬物乱用・依存等の実態把握に関する研究及び社会経済的損失に関する研究」。2003
- 5) 庄司正実：全国の児童自立支援施設における薬物依存の意識・実態に関する研究 平成 16 年度厚生労働科学研究「薬物乱用・依存の実態とその社会的影響・対策に関する研究」。2005
- 6) 庄司正実：全国の児童自立支援施設における薬物依存の意識・実態に関する研究 平成 18 年度厚生労働科学研究「薬物乱用・依存等の実態把握と乱用・依存者に対する対応策に関する研究」。2007
- 7) 庄司正実：全国の児童自立支援施設における薬物依存の意識・実態に関する研究 平成 20 年度厚生労働科学研究「薬物乱用・依存等の実態把握と「回復」に向けての対応策に関する研究」。2009
- 8) 庄司正実：全国の児童自立支援施設における薬物依存の意識・実態に関する研究 平成 22 年度厚生労働科学研究「薬物乱用・依存の実態把握と再乱用防止のための社会資源等の現状と課題に関する研究」。2011
- 9) 庄司正実：全国の児童自立支援施設における薬物依存の意識・実態に関する研究 平成 24 年度厚生労働科学研究「薬物乱用・依存の実態把握と薬物依存者に関する制度的社会資源の現状と課題に関する研究」。2013
- 10) 庄司正実：全国の児童自立支援施設における薬物依存の意識・実態に関する研究 平成 26 年度厚生労働科学研究「脱法ドラッグを含む薬物乱用・依存状況の実態把握と薬物依存症者の回復とその家族に対する支援に関する研究」。2015
- 11) 庄司正実：全国の児童自立支援施設における薬物依存の意識・実態に関する研究 平成 28 年度厚生労働科学研究「危険ドラッグを含む薬物乱用・依存状況の実態把握と薬物依存症者の社会復帰に向けた支援に関する研究」。2017
- 12) 庄司正実：全国の児童自立支援施設における薬物依存の意識・実態に関する研究 平成 30 年度厚生労働科学研究「薬物乱用・依存状況等

のモニタリング調査と薬物依存症者・家族に対する回復支援に関する研究」 2019

13) 警察庁警察庁生活安全局少年課:平成 29 年中における少年の補導及び保護の概況 2017

**G. 研究発表**

なし

**H. 知的財産権の出願・登録状況**

なし

表1 性・学年構成

	男 性		女 性	
	人数	%	人数	%
小学 4年以下	8	1.3	2	0.9
小学 5年	23	3.8	4	1.9
小学 6年	52	8.7	14	6.6
中学 1年	101	16.8	26	12.3
中学 2年	159	26.5	58	27.5
中学 3年	220	36.6	86	40.8
高校 1年	19	3.2	4	1.9
高校 2年	8	1.3	4	1.9
高校 3年	6	1.0	3	1.4
専門学校	0	0.0	0	0.0
中卒 無職	3	0.5	9	4.3
就労中	1	0.2	1	0.5
無回答	1	0.2	0	0.0

表2 性・年齢構成

	男 性		女 性	
	人数	%	人数	%
9歳以下	5	0.8	0	0.0
10歳	12	1.9	3	1.3
11歳	33	5.4	10	4.4
12歳	82	13.3	17	7.5
13歳	127	20.6	50	22.1
14歳	184	29.9	63	27.9
15歳	138	22.4	58	25.7
16歳	23	3.7	14	6.2
17歳	8	1.3	7	3.1
18歳	4	0.6	4	1.8

表3 施設入所期間

	男 性		女 性	
	人数	%	人数	%
3ヶ月以下	112	18.1	51	24.2
4ヶ月から6ヶ月	96	15.5	48	22.7
7ヶ月から1年	168	27.1	51	24.2
1年1ヶ月から1年6ヶ月	135	21.8	30	14.2
1年7ヶ月から2年	53	8.5	17	8.1
2年1ヶ月以上	56	9.0	14	6.6

表4 地域別人数

	男 性		女 性	
	人数	%	人数	%
東北・北海道	86	18.1	31	18.5
関東	93	19.6	26	15.5
中部	73	15.4	25	14.9
関西	80	16.9	34	20.2
中国・四国	73	15.4	25	14.9
九州	69	14.6	27	16.1

表5 非行歴

	男 性		女 性	
	人数	%	人数	%
学校をさぼった	340	56.6	164	77.7
外泊や家出をした	267	44.4	157	74.4
自転車を盗んだ	126	21.0	45	21.3
人の物やお金を盗んだ	238	39.6	84	39.8
人にけがをさせた	302	50.2	89	42.2
家からお金を持ち出した	237	39.4	108	51.2
不良仲間とつき合った	108	18.0	94	44.5
家の中で暴れた	239	39.8	111	52.6
人の物をわざと壊した	112	18.6	47	22.3
バイクや自動車を盗んだ	41	6.8	12	5.7
ひったくり、カツアゲ	32	5.3	9	4.3
無免許運転	51	8.5	27	12.8
物や家に火をつけた	87	14.5	18	8.5
根性焼きや入墨をした	36	6.0	28	13.3
性関係のこと	186	30.9	91	43.1
暴力団とつき合った	13	2.2	16	7.6
暴走族に入った	9	1.5	10	4.7
その他	43	7.2	41	19.4

表6 初発非行年齢

	男 性		女 性	
	人数	%	人数	%
小学校入学前	25	4.5	9	4.3
小学 1年	53	9.6	14	6.7
小学 2年	46	8.3	12	5.7
小学 3年	73	13.2	24	11.5
小学 4年	89	16.2	27	12.9
小学 5年	90	16.3	30	14.4
小学 6年	86	15.6	29	13.9
中学 1年	60	10.9	37	17.7
中学 2年	21	3.8	18	8.6
中学 3年	5	0.9	5	2.4
中学卒業後	3	0.5	4	1.9

表7 家庭裁判所への係属歴

	男 性		女 性	
	人数	%	人数	%
ある	108	18.2	21	9.5
ない	485	81.8	201	90.5



表8 周囲の薬物乱用の頻度

	男 性		女 性	
	人数	%	人数	%
有機溶剤	45	7.5	43	20.4
大麻	27	4.5	43	20.4
覚せい剤	20	3.3	29	13.7
ブタン	32	5.3	16	7.6
MDMA	6	1.0	7	3.3
コカイン	10	1.7	12	5.7
リタリン	2	0.3	2	0.9
睡眠薬	23	3.8	42	19.9
抗不安薬	25	4.2	35	16.6
咳止め液	10	1.7	15	7.1
その他	7	1.2	12	5.7

表9 周囲の薬物乱用による異常や症状頻度

	男 性		女 性	
	人数	%	人数	%
有機溶剤	9	1.5	9	4.3
大麻	6	1.0	14	6.6
覚せい剤	7	1.2	16	7.6
ブタン	7	1.2	3	1.4
睡眠薬・抗不安薬	13	2.2	14	6.6

表10 薬物乱用を誘われた頻度

	男 性		女 性	
	人数	%	人数	%
有機溶剤	13	2.2	17	8.1
大麻	13	2.2	20	9.5
覚せい剤	8	1.3	11	5.2
ブタン	9	1.5	10	4.7
睡眠薬・抗不安薬	9	1.5	18	8.5
その他	3	0.5	10	4.7

表11-1 薬物入手可能性(男性) 単位%

	簡単	何とか 手に入る	ほとんど 不可能	絶対 不可能
有機溶剤	11.3	5.6	7.6	75.6
大麻	3.5	5.0	8.7	82.7
覚せい剤	2.2	5.4	9.1	83.3
ブタン	19.2	4.4	7.8	68.6
睡眠薬・抗不安薬	9.2	6.5	8.5	75.8

表11-2 薬物入手可能性(女性) 単位%

	簡単	何とか 手に入る	ほとんど 不可能	絶対 不可能
有機溶剤	17.8	6.6	8.1	67.5
大麻	11.2	9.1	6.6	73.1
覚せい剤	6.7	6.7	7.8	78.8
ブタン	19.8	7.6	7.6	65.0
睡眠薬・抗不安薬	23.7	7.1	5.6	63.6

表12 本人の薬物乱用の頻度

	男 性		女 性	
	人数	%	人数	%
有機溶剤	14	2.3	11	5.2
大麻	4	0.7	8	3.8
覚せい剤	2	0.3	1	0.5
ブタン	14	2.3	10	4.7
MDMA	0	0.0	2	0.9
コカイン	0	0.0	0	0.0
リタリン	0	0.0	0	0.0
睡眠薬	8	1.3	20	9.5
抗不安薬	10	1.7	18	8.5
咳止め液	4	0.7	6	2.8
その他	1	0.2	6	2.8

表13 飲酒歴

	男 性		女 性	
	人数	%	人数	%
ない	482	80.2	113	51.4
1年で数回	64	10.6	25	11.4
月に2-3回	18	3.0	26	11.8
週に2-3回	20	3.3	29	13.2
ほぼ毎日	17	2.8	27	12.3

表14 飲酒開始（経験者のみ）

	男 性		女 性	
	人数	%	人数	%
小学 1年	6	5.0	1	1.0
小学 2年	4	3.3	2	1.9
小学 3年	6	5.0	6	5.8
小学 4年	14	11.6	4	3.8
小学 5年	12	9.9	14	13.5
小学 6年	17	14.0	14	13.5
中学 1年	33	27.3	30	28.8
中学 2年	12	9.9	16	15.4
中学 3年	3	2.5	5	4.8
無回答	14	12	12	12

表15 喫煙歴

	男 性		女 性	
	人数	%	人数	%
ない	503	83.4	135	60.8
1年で数回	31	5.1	25	11.3
月に2-3回	10	1.7	8	3.6
週に2-3回	14	2.3	12	5.4
ほぼ毎日	45	7.5	42	18.9

表16 喫煙開始

	男 性		女 性	
	人数	%	人数	%
小学 1年	5	4.8	2	2.4
小学 2年	1	1.0	3	3.6
小学 3年	8	7.7	5	6.0
小学 4年	11	10.6	4	4.8
小学 5年	15	14.4	8	9.5
小学 6年	18	17.3	7	8.3
中学 1年	25	24.0	24	28.6
中学 2年	9	8.7	21	25.0
中学 3年	1	1.0	6	7.1
無回答	11	10.6	4	4.8

表17 法律による未成年の喫煙禁止について

	男 性		女 性	
	人数	%	人数	%
すべきではない	457	80.0	118	56.2
少々ならかまわない	65	11.4	61	29.0
かまわない	49	8.6	31	14.8

表18-1 有機溶剤・大麻・覚せい剤・ブタンの乱用頻度の年代変化(男性) 単位:%

	1994	1996	1998	2000	2002	2004	2006	2008	2010	2012	2014	2016	2018	2020
有機溶剤	41.2	37.3	30.3	26.4	21.6	14.3	9.8	10.7	7.2	4.5	4.5	3.3	3.7	2.3
大麻	5.5	6.7	4.8	5.0	4.9	4.9	2.7	4.0	1.9	2.0	2.1	1.6	1.6	0.7
覚せい剤	1.2	1.7	3.9	5.0	2.5	1.6	0.7	0.3	0.4	0.7	0.1	0.8	0.5	0.3
ブタン				17.8	17.5	13.7	10.5	11.7	9.1	10.1	11.3	3.0	4.0	2.3

表18-2 有機溶剤・大麻・覚せい剤・ブタンの乱用頻度の年代変化(女性) 単位:%

	1994	1996	1998	2000	2002	2004	2006	2008	2010	2012	2014	2016	2018	2020
有機溶剤	59.6	50.6	48.5	52.3	46.5	44.2	31.1	30.5	28.6	21.3	20.6	17.2	12.5	5.0
大麻	22.0	19.0	14.4	14.7	15.9	15.9	14.0	14.0	12.6	7.0	5.5	3.3	4.3	3.6
覚せい剤	6.6	10.8	16.9	15.2	13.6	12.4	10.9	6.9	8.3	4.5	3.3	1.8	3.4	0.5
ブタン				33.3	27.9	25.7	15.0	18.8	21.5	16.4	21.8	6.2	5.3	4.5

表19-1 地域別薬物乱用頻度(男性)

	有機溶剤	大麻	覚せい剤	ブタン	睡眠薬	抗不安薬
東北・北海道 (n=86)	1.2%	0.0%	0.0%	0.0%	1.2%	2.4%
関東 (n=93)	2.2%	0.0%	0.0%	2.2%	3.3%	2.2%
中部 (n=73)	2.8%	1.4%	0.0%	1.4%	1.4%	1.4%
関西 (n=80)	2.5%	0.0%	0.0%	3.8%	0.0%	0.0%
中国・四国 (n=73)	1.4%	0.0%	0.0%	2.7%	0.0%	1.4%
九州 (n=69)	3.2%	0.0%	0.0%	3.2%	0.0%	1.6%

表19-2 地域別薬物乱用頻度(女性)

	有機溶剤	大麻	覚せい剤	ブタン	睡眠薬	抗不安薬
東北・北海道 (n=31)	12.9%	3.2%	0.0%	6.7%	16.1%	16.1%
関東 (n=26)	0.0%	11.5%	0.0%	3.8%	7.7%	7.7%
中部 (n=25)	0.0%	0.0%	0.0%	4.0%	4.0%	8.0%
関西 (n=34)	9.4%	3.1%	0.0%	9.1%	3.0%	3.1%
中国・四国 (n=25)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	16.7%	12.5%
九州 (n=27)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.7%	0.0%

表20-1 薬物への態度(男性)

	すべきではない	少々なら構わない	構わない	考えたことがない
有機溶剤	45.2%	2.3%	1.6%	51.0%
大麻	48.0%	0.7%	1.9%	49.4%
覚せい剤	49.7%	0.7%	1.2%	48.3%
ブタン	44.7%	1.7%	1.6%	52.0%
睡眠薬・抗不安薬	44.7%	1.9%	2.6%	50.8%

表20-2 薬物への態度(女性)

	すべきではない	少々なら構わない	構わない	考えたことがない
有機溶剤	43.1%	7.7%	2.4%	46.9%
大麻	45.2%	5.2%	3.3%	46.2%
覚せい剤	49.5%	3.8%	1.9%	44.7%
ブタン	41.7%	4.7%	2.8%	50.7%
睡眠薬・抗不安薬	38.6%	9.5%	10.5%	41.4%

表21 最もしていた時の有機溶剤乱用頻度(乱用者のみ)

	男性 (n=6)		女性 (n=6)	
	人数	%	人数	%
今まで1, 2回	5	83.3	2	33.3
数回以上	1	16.7	2	33.3
ほとんど毎日	0	0.0	2	33.3

表22 有機溶剤の知識

	男性		女性	
	人数	%	人数	%
急性中毒死	148	23.9	69	30.5
精神病状態	225	36.3	119	52.7
フラッシュバック	202	32.6	101	44.7
いずれも知らなかった	308	49.7	83	36.7

表23 有機溶剤で体験した症状(有機溶剤乱用者)

	男性乱用者 (n=6)		女性乱用者 (n=6)	
	人数	%	人数	%
精神病状態	0	0.0	1	16.7
フラッシュバック	4	66.7	2	33.3

表24 最もしていた時のブタン乱用頻度(乱用者のみ)

	男性(n=5)		女性(n=5)	
	人数	%	人数	%
今まで1, 2回	2	40.0	3	60.0
数回以上	1	20.0	2	40.0
ほとんど毎日	2	40.0	0	0.0



表25 ブタンの知識

	男性		女性	
	人数	%	人数	%
急性中毒死	83	13.4	44	19.5
精神病状態	83	13.4	31	13.7
いずれも知らなかった	454	73.2	163	72.1

表26 ブタンで体験した症状（乱用者のみ）

	男性乱用者(n=5)		女性乱用者(n=5)	
	人数	%	人数	%
精神病状態	1	20.0	1	20.0

表27 大麻への関心

	男性		女性	
	人数	%	人数	%
知らなかった	143	25.5	33	15.6
関心がなかった	385	68.8	149	70.3
見てみたかった	22	3.9	16	7.5
試してみたかった	10	1.8	14	6.6

表28 最もしていた時の大麻乱用頻度(乱用者のみ)

	男性(n=4)		女性(n=8)	
	人数	%	人数	%
今まで1, 2回	3	75.0	3	37.5
数回以上	1	25.0	4	50.0
ほとんど毎日	0	0.0	1	12.5

表29 大麻の知識

	男性		女性	
	人数	%	人数	%
精神病状態	295	52.7	127	59.9

表30 大麻で体験した症状(乱用者のみ)

	男性乱用者(n=4)		女性乱用者(n=8)	
	人数	%	人数	%
精神病状態	2	50.0	4	50.0

表31 覚せい剤への関心

	男性		女性	
	人数	%	人数	%
覚せい剤は知らなかった	133	23.8	32	15.2
関心がなかった	401	71.7	153	72.5
見てみたかった	19	3.4	15	7.1
試してみたかった	6	1.1	11	5.2

表32 覚せい剤乱用頻度

	男性 (n=2)		女性 (n=1)	
	人数	%	人数	%
今まで1, 2回	2	100.0	0	0.0
数回以上	0	0.0	1	100.0
ほとんど毎日	0	0.0	0	0.0

表33 覚せい剤の知識

	男 性		女 性	
	人数	%	人数	%
精神病状態	208	33.5	102	45.1
フラッシュバック	170	27.4	79	35.0
いずれも知らなかった	328	52.9	105	46.5

表34 覚せい剤で体験した症状

	男性乱用者 (n=2)		女性乱用者 (n=1)	
	人数	%	人数	%
精神病状態	0	0.0	0	0.0
フラッシュバック	1	50.0	1	100.0

## 調査へのお願い

- この調査の目的は、薬物などに対するみなさんの考えや経験を知ることです。この調査は、厚生労働省の科学研究費によるもので、現在、全国の一般中学生でも同様な調査が行われています。
- 自分の名前は書く必要はありません。また、集めた用紙もコンピュータで集計しますので誰がどのように答えたのか分かりません。したがって、答えた内容が施設での生活や退院時期に影響することはありません。答えたくない質問には答えなくてもかまいません。白紙提出でもかまいません。無記名式のため回収後に調査協力を取り消すことはできません。
- 各質問に対する回答は、特にことわらない限りもつともあてはまる内容の番号を一つだけ選んで○をつけて下さい。
- 調査に協力していただける場合は下記の□欄にチェックをしてください。

調査に協力します□

目白大学 教授 庄司 正実  
国立武蔵野学院 院長 小林 昌彦  
国立武蔵野学院 心理士 宇佐見兼市

厚生労働科学研究費補助金（課題番号 19KC2011）

問1 あなたの年齢はいくつですか？ 年齢を記入してください \_\_\_\_\_ 歳

問2 学校は？

- ① 小学校 ② 中学校 ③ 高校 ④ 専門学校 ⑤ 中学卒業後で無職 ⑥ 就労中

問3 何年生ですか？学年を記入してください \_\_\_\_\_ 年生

問4 男性ですか、女性ですか？ ① 男性 ② 女性

問5 今回、この施設に入所してからどのくらいになりますか？ \_\_\_\_\_ 年 \_\_\_\_\_ ヶ月

問6 これまで家庭裁判所かていさいばんしょから呼び出されたことはありますか？ ① ある ② ない

**問 7**

あなたの身近な人（友達、先輩、知り合い、家族など）で以下のような薬物をやっている人はいましたか？

- |   |                            |    |                            |     |
|---|----------------------------|----|----------------------------|-----|
| 1) シンナーやトルエン（ボンド、マニキュアの除光液 <sup>じよこうえき</sup> なども含む） | <input type="checkbox"/> 1 | いた | <input type="checkbox"/> 2 | いない |
| 2) マリファナ（大麻 <sup>たいま</sup> 、ハッパ、ハシッシも同じ）            | <input type="checkbox"/> 1 | いた | <input type="checkbox"/> 2 | いない |
| 3) 覚せい剤（エス、スピード、シャブも同じ）                             | <input type="checkbox"/> 1 | いた | <input type="checkbox"/> 2 | いない |
| 4) ガス（ライター用ガス、カセットコンロ用ガスなど）                         | <input type="checkbox"/> 1 | いた | <input type="checkbox"/> 2 | いない |
| 5) MDMA（エクスタシー、エックス、Xも同じ）                           | <input type="checkbox"/> 1 | いた | <input type="checkbox"/> 2 | いない |
| 6) コカイン（クラックも同じ）                                    | <input type="checkbox"/> 1 | いた | <input type="checkbox"/> 2 | いない |
| 7) リタリン（病気治療以外の目的で）                                 | <input type="checkbox"/> 1 | いた | <input type="checkbox"/> 2 | いない |
| 8) 睡眠薬 <sup>すいみんやく</sup> （病気治療以外の目的で）               | <input type="checkbox"/> 1 | いた | <input type="checkbox"/> 2 | いない |
| 9) 精神安定剤 <sup>せいしんあんていざい</sup> （病気治療以外の目的で）         | <input type="checkbox"/> 1 | いた | <input type="checkbox"/> 2 | いない |
| 10) ブロン薬などのセキ止め液（病気治療以外の目的で）                        | <input type="checkbox"/> 1 | いた | <input type="checkbox"/> 2 | いない |
| 11) その他の薬物  | <input type="checkbox"/> 1 | いた | <input type="checkbox"/> 2 | いない |

**問 8**

身近な人で、以下の薬物をやった結果病気や異常になった人がいましたか？

- |  |                            |    |                            |     |
|--|----------------------------|----|----------------------------|-----|
| 1) シンナーやトルエン（ボンド、マニキュアの除光液 <sup>じよこうえき</sup> なども含む）                | <input type="checkbox"/> 1 | いた | <input type="checkbox"/> 2 | いない |
| 2) マリファナ（大麻 <sup>たいま</sup> 、ハッパ、ハシッシも同じ）                           | <input type="checkbox"/> 1 | いた | <input type="checkbox"/> 2 | いない |
| 3) 覚せい剤（エス、スピード、シャブも同じ）  | <input type="checkbox"/> 1 | いた | <input type="checkbox"/> 2 | いない |
| 4) ガス（ライター用ガス、カセットコンロ用ガスなど）  | <input type="checkbox"/> 1 | いた | <input type="checkbox"/> 2 | いない |
| 5) 睡眠薬 <sup>すいみんやく</sup> ・精神安定剤 <sup>せいしんあんていざい</sup> （病気治療以外の目的で） | <input type="checkbox"/> 1 | いた | <input type="checkbox"/> 2 | いない |

**問 9**

あなたは以下のような薬物の使用を誘われたことがありますか？

- |  |                            |    |                            |    |
|--|----------------------------|----|----------------------------|----|
| 1) シンナーやトルエン（ボンド、マニキュアの除光液 <sup>じよこうえき</sup> なども含む）                | <input type="checkbox"/> 1 | ある | <input type="checkbox"/> 2 | ない |
| 2) マリファナ（大麻 <sup>たいま</sup> 、ハッパ、ハシッシも同じ）                           | <input type="checkbox"/> 1 | ある | <input type="checkbox"/> 2 | ない |
| 3) 覚せい剤（エス、スピード、シャブも同じ）  | <input type="checkbox"/> 1 | ある | <input type="checkbox"/> 2 | ない |
| 4) ガス（ライター用ガス、カセットコンロ用ガスなど）  | <input type="checkbox"/> 1 | ある | <input type="checkbox"/> 2 | ない |
| 5) 睡眠薬 <sup>すいみんやく</sup> ・精神安定剤 <sup>せいしんあんていざい</sup> （病気治療以外の目的で） | <input type="checkbox"/> 1 | ある | <input type="checkbox"/> 2 | ない |
| 6) その他の薬物  | <input type="checkbox"/> 1 | ある | <input type="checkbox"/> 2 | ない |

**問 10**

あなた自身は以下のような薬物を1回でも使用したことがありますか？

- |   |                               |                               |
|---|-------------------------------|-------------------------------|
| 1) シンナーやトルエン (ボンド, マニキュアの除光液 <sup>じょこうえき</sup> なども含む) | <input type="checkbox"/> 1 ある | <input type="checkbox"/> 2 ない |
| 2) マリファナ (大麻 <sup>たいま</sup> , ハッパ, ハシッシも同じ)           | <input type="checkbox"/> 1 ある | <input type="checkbox"/> 2 ない |
| 3) 覚せい剤 (エス, スピード, シャブも同じ)                            | <input type="checkbox"/> 1 ある | <input type="checkbox"/> 2 ない |
| 4) ガス (ライター用ガス, カセットコンロ用ガスなど)                         | <input type="checkbox"/> 1 ある | <input type="checkbox"/> 2 ない |
| 5) MDMA (エクスタシー, エックス, Xも同じ)                          | <input type="checkbox"/> 1 ある | <input type="checkbox"/> 2 ない |
| 6) コカイン (クラックも同じ)                                     | <input type="checkbox"/> 1 ある | <input type="checkbox"/> 2 ない |
| 7) リタリン (病気治療以外の目的で)                                  | <input type="checkbox"/> 1 ある | <input type="checkbox"/> 2 ない |
| 8) 睡眠薬 <sup>すいみんやく</sup> (病気治療以外の目的で)                 | <input type="checkbox"/> 1 ある | <input type="checkbox"/> 2 ない |
| 9) 精神安定剤 <sup>せいしんあんていざい</sup> (病気治療以外の目的で)           | <input type="checkbox"/> 1 ある | <input type="checkbox"/> 2 ない |
| 10) ブロン薬などのセキ止め液 (病気治療以外の目的で)                         | <input type="checkbox"/> 1 ある | <input type="checkbox"/> 2 ない |
| 11) その他の薬物  | <input type="checkbox"/> 1 ある | <input type="checkbox"/> 2 ない |

**問 11**

施設に入る前, あなたが以下のような薬物を手に入れることはどの程度難しいことでしたか？

- |   |                                     |  |
|---|-------------------------------------|--|
| 1) シンナーやトルエン  | <input type="checkbox"/> 1 簡単に手に入る  | <input type="checkbox"/> 2 少々苦労するが, なんとか手に入る |
|   | <input type="checkbox"/> 3 ほとんど不可能だ | <input type="checkbox"/> 4 絶対不可能だ            |
| 2) マリファナ<br>(大麻 <sup>たいま</sup> , ハッパ, ハシッシも同じ)                        | <input type="checkbox"/> 1 簡単に手に入る  | <input type="checkbox"/> 2 少々苦労するが, なんとか手に入る |
|   | <input type="checkbox"/> 3 ほとんど不可能だ | <input type="checkbox"/> 4 絶対不可能だ            |
| 3) 覚せい剤<br>(エス, スピード, シャブも同じ)   | <input type="checkbox"/> 1 簡単に手に入る  | <input type="checkbox"/> 2 少々苦労するが, なんとか手に入る |
|   | <input type="checkbox"/> 3 ほとんど不可能だ | <input type="checkbox"/> 4 絶対不可能だ            |
| 4) ガスパンのためのライター用ガス・<br>カセットコンロ用ガスなど                                   | <input type="checkbox"/> 1 簡単に手に入る  | <input type="checkbox"/> 2 少々苦労するが, なんとか手に入る |
|   | <input type="checkbox"/> 3 ほとんど不可能だ | <input type="checkbox"/> 4 絶対不可能だ            |
| 5) 睡眠薬 <sup>すいみんやく</sup> ・精神安定剤 <sup>せいしんあんていざい</sup><br>(病気治療以外の目的で) | <input type="checkbox"/> 1 簡単に手に入る  | <input type="checkbox"/> 2 少々苦労するが, なんとか手に入る |
|   | <input type="checkbox"/> 3 ほとんど不可能だ | <input type="checkbox"/> 4 絶対不可能だ            |

**問 12** 施設に入る前、以下の薬物を使うことをどう思っていましたか？

- 1) シンナーやトルエン  1 すべきではないと思っていた  2 少々ならかまわないと思っていた  
 3 かまわないと思っていた  4 特に考えたことはなかった
- 2) マリファナ  1 すべきではないと思っていた  2 少々ならかまわないと思っていた  
(<sup>たいま</sup>大麻, ハッパ, ハシッシも同じ)  3 かまわないと思っていた  4 特に考えたことはなかった
- 3) 覚せい剤  1 すべきではないと思っていた  2 少々ならかまわないと思っていた  
(エス, スピード, シャブも同じ)  3 かまわないと思っていた  4 特に考えたことはなかった
- 4) ガスパンのためのライター用ガス・  
 カセットコンロ用ガスなど  1 すべきではないと思っていた  2 少々ならかまわないと思っていた  
 3 かまわないと思っていた  4 特に考えたことはなかった
- 5) <sup>すいみんやく</sup>睡眠薬・<sup>せいしんあんていざい</sup>精神安定剤  1 すべきではないと思っていた  2 少々ならかまわないと思っていた  
(病気治療以外の目的で)  3 かまわないと思っていた  4 特に考えたことはなかった

**問 13** 入所前から以下の薬物使用が法律で禁止されていることを知っていましたか？

- 1) シンナーやトルエン  1 知っていた  2 知らなかった
- 2) マリファナ (<sup>たいま</sup>大麻, ハッパ, ハシッシも同じ)  1 知っていた  2 知らなかった
- 3) 覚せい剤 (エス, スピード, シャブも同じ)  1 知っていた  2 知らなかった

**問 14** この施設に入る前、お酒（アルコール類）やタバコをどのくらいやってましたか？

- 1) お酒について  
 1 飲んだことはない  2 1年で数回  3 月2-3回  4 週に2-3回  5 ほぼ毎日
- 2) お酒はいつ頃からやってましたか？ (いずれかに○印をつけてください)  
 1 小学校  2 中学校 の\_\_\_\_\_年生頃から

(問 14 のつづき)

3) タバコについて

- 1 吸ったことはない     2 1年で数回     3 月2-3回     4 週に2-3回     5 ほぼ毎日

4) タバコはいつ頃からやりましたか？ (いずれかに○印をつけてください)

- 1 小学校     2 中学校    の\_\_\_\_\_年生頃から

5) 未成年者のタバコ(喫煙)をどう思っていましたか？

- 1 法律で禁じられているから、すべきではないと思っていた  
 2 法律で禁じられてはいるが、少々ならかまわないと思っていた  
 3 法律で禁じられてはいるが、それを守る必要は全然ないと思っていた

## シンナー遊びについて

**問 15** 施設に入る前、最もしていた時で「シンナー遊び」をどのくらいしていましたか？

- 1 したことはない     2 今まで1, 2回くらい     3 数回以上した     4 ほとんど毎日

**問 16**

「シンナー遊び」をしすぎたり繰り返したりすると、以下のようなことがおこることがあります。  
「シンナー遊び」をする前(したことがない人は施設入所前)、「シンナー遊び」でおこることとして知っていたものすべてに○をつけてください。

- 1 きゅうせいちゆうどくし 急性中毒死 (吸っていてそのまま急に死ぬこと)  
 2 せいしんびょうじょうたい 精神病状態 (何も無いのに物が見えたり声が聞こえたりするげんかく幻覚、誰もいないのに自分が見られているとか自分がうば噂されていると思いきなりするもうそう妄想がでること)  
 3 フラッシュバック (薬を止めてしばらくたつのに幻覚や妄想がでること)  
 4 いずれも知らなかった

**問 17**

「シンナー遊び」の結果、上記のようなせいしんびょうじょうたい精神病状態(幻覚や妄想)やフラッシュバックなどを体験したことがありますか？体験したことに○をつけてください。(もともと「シンナー遊び」をしていない人は 3を選んでください)

- 1 せいしんびょうじょうたい 精神病状態     2 フラッシュバック     3 「シンナー遊び」はしたことがない



## ガスパン遊び（ガスの吸引）について

**問 18** 施設に入る前、最もしていた時で「ガスパン遊び」をどのくらいしていましたか？

- ① したことはない      ② 今まで1, 2回くらい      ③ 数回以上した      ④ ほとんど毎日

**問 19**

「ガスパン遊び」をすると<sup>せいしんびょうじょうたい</sup>精神病状態（幻覚や妄想）や<sup>きゅうせいちゆうどくし</sup>急性中毒死をおこすことをガスパン遊びをする前に（したことがない人は施設入所前）知っていましたか？「ガスパン遊び」でおこることとして知っていたものすべてに○をつけてください。

- ① <sup>せいしんびょうじょうたい</sup>精神病状態      ② <sup>きゅうせいちゆうどくし</sup>急性中毒死      ③ いずれも知らなかった

**問 20**

「ガス」を使った結果、<sup>せいしんびょうじょうたい</sup>精神病状態（幻覚や妄想）を体験したことがありますか？

- ① ある      ② ない      ③ ガスパンは使ったことがない

## <sup>たいま</sup>大麻（マリファナ、ハシッシ、ハッパ）について

**問 21**

<sup>たいま</sup>大麻を吸う前（使ったことがない人は施設入所前）、<sup>たいま</sup>大麻についてあなたはどのように思っていましたか？

- ① 大麻は知らなかった      ② 関心がなかった  
③ 見てみたかった      ④ 試してみたかった

**問 22**

施設に入る前、最もしていた時で<sup>たいま</sup>大麻をどのくらい吸っていましたか？

- ① したことはない      ② 今まで1, 2回くらい      ③ 数回以上した      ④ ほとんど毎日

**問 23**

<sup>たいま</sup>大麻を吸うと<sup>せいしんびょうじょうたい</sup>精神病状態（幻覚や妄想）をおこすことを<sup>たいま</sup>大麻を吸う前（したことがない人は施設入所前）に知っていましたか？

- ① 知っていた      ② 知らなかった

問 24

大麻<sup>たいま</sup>を吸った結果、精神病状態<sup>せいしんびょうじょうたい</sup>（幻覚や妄想）を体験したことがありますか？

- ① ある                      ② ない                      ③ 大麻<sup>たいま</sup>は使ったことがない

## 覚せい剤（スピード、エス）について

問 25

覚せい剤（スピード、エス）を使う前（使ったことがない人は施設入所前）、覚せい剤についてあなたはどう思っていましたか？

- ① 覚せい剤は知らなかった                      ② 関心がなかった  
③ 見てみたかった                      ④ 試してみたかった

問 26

施設に入る前、最も使っていた時で覚せい剤（スピード、エス）をどのくらい使っていましたか？

- ① したことはない                      ② 今まで1、2回くらい                      ③ 数回以上した                      ④ ほとんど毎日

問 27

覚せい剤によって精神病状態<sup>せいしんびょうじょうたい</sup>やフラッシュバックが起ることを覚せい剤を使う前に（使ったことがない人は施設入所前）知っていましたか？覚せい剤でおこることとして知っていたものすべてに○をつけてください。

- ① 精神病状態<sup>せいしんびょうじょうたい</sup>                      ② フラッシュバック                      ③ いずれも知らなかった

問 28

覚せい剤を使った結果、精神病状態<sup>せいしんびょうじょうたい</sup>やフラッシュバックを体験したことがありますか？体験したことをすべてに○をつけてください。（もともと覚せい剤を使っていない人は③を選んでください）

- ① 精神病状態<sup>せいしんびょうじょうたい</sup>                      ② フラッシュバック                      ③ 覚せい剤は使ったことがない

## 生活環境について

### 問 29

以下のようないわゆる非行について、したことがあるのはどれですか？したことがあるものすべてに○をつけてください。

- |              |               |  |
|--------------|---------------|--|
| ① 外泊や家出をした   | ② 人にけがをさせた    | ③ 家からお金を持ち出した                          |
| ④ 自転車を盗んだ    | ⑤ 人の物やお金を盗んだ  | ⑥ ひったくり、カツアゲ                           |
| ⑦ 家の中で暴れた    | ⑧ 暴走族に入った     | ⑨ 物や家に火をつけた                            |
| ⑩ 学校をさぼった    | ⑪ バイクや自動車を盗んだ | ⑫ 人の物やみんなの物をわざと壊した                     |
| ⑬ 不良仲間とつき合った | ⑭ 暴力団とつき合った   | ⑮ <small>こんはうや いれずみ</small> 根性焼きや入墨をした |
| ⑯ 無免許運転      | ⑰ 性関係のこと      | ⑱ その他                                  |

### 問 30

このような非行を、あなたが初めてしたのはいつですか？

- |          |         |         |         |         |
|----------|---------|---------|---------|---------|
| ① 小学校入学前 | ② 小学1年生 | ③ 小学2年生 | ④ 小学3年生 | ⑤ 小学4年生 |
| ⑥ 小学5年生  | ⑦ 小学6年生 | ⑧ 中学1年生 | ⑨ 中学2年生 | ⑩ 中学3年生 |
| ⑪ 中学卒業以後 |         |         |         |         |

### 問 31

親から暴力を振るわれたことがありますか？

- |                    |                  |                   |
|--------------------|------------------|-------------------|
| ① ない               | ② まれ（今まで1, 2度）   | ③ たまに（年に1, 2回くらい） |
| ④ しばしば（月に1, 2回くらい） | ⑤ かなり（週に1, 2回以上） |                   |

### 問 32

親からひどい暴言をはかれたことがありますか？

- |                    |                  |                   |
|--------------------|------------------|-------------------|
| ① ない               | ② まれ（今まで1, 2度）   | ③ たまに（年に1, 2回くらい） |
| ④ しばしば（月に1, 2回くらい） | ⑤ かなり（週に1, 2回以上） |                   |

質問は以上です。ありがとうございました。